

所属 人間生活学部 保育学科		職名 教授	氏名 小 川 恭 子
学位 修士(教育学)(北海道教育大学)	特記すべき資格	幼稚園教諭一種免許状, 小学校教諭一種免許状, 養護学校教諭二種免許状, 社会福祉士	大学院における研究指導担当資格 有
I 教育活動			
主な担当科目 <学 部> 子ども家庭福祉論, 社会的養護, 福祉施設実習 <大学院> 生活福祉学特講VI(子ども福祉), 生活福祉学演習II			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)			
1) オリジナルの資料を作成	2014年4月～現在	子ども家庭福祉論, 社会的養護の講義において, 毎時間オリジナルのワークシートを作成し, ポイントを書き込む作業を通して理解を深める授業を行った。	
2) 事例を活用した授業展開	2014年4月～現在	社会的養護内容では事例を主とした演習問題を作成。実践場面を想定してのシミュレーション教育を取り入れ, 実践的問題解決能力の向上を考えた。	
3) 視聴覚教材等の活用	2014年4月～現在	パワーポイントやDVD等の視聴覚教材を活用し授業ポイントをわかりやすく伝えると同時に, 質疑応答を取り入れながら双方向性での授業展開を心掛けている。	
4) 授業評価の実施	2014年4月～現在	受講者数10名上の担当科目において授業評価を実施。結果を授業に反映するように心掛けている。学生による授業評価は概ね分かりやすいとの評価を受けている。	
2. 作成した教科書, 教材			
1) 保育・教育 実習日誌の書き方(中央法規)	2016年9月	福祉型障害児入所施設を担当。福祉施設実習日誌記入のポイントについて, 事例を題材としながらイメージしやすいようにまとめた。	
2) 保育実習ガイドライン(第3版)(全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会)	2017年3月	第2版が2013年に発行されたが, その後の保育士養成カリキュラム変更や法律改正, および子ども達を取り巻く社会状況の変化に対応すべく, 再編成をした。	
3) 実践に活かす社会的養護 I (ミネルヴァ書房)	2020年1月(印刷中)	編者としてかわる。厚生労働省が示した「新しい社会的養育ビジョン」を念頭に, 今後の保育士に求められる社会的養護の基礎的知識についてまとめた。まえがき, パーマネンシープランニングの重要性について担当。	
4) 保育実習ガイドライン(第4版)(全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会)	2020年3月(印刷中)	第3版が2017年に刊行されたが, その後の法律改正や現状の学生の実態に合わせるべく, 再編成を行った。	
3. 教育方法・教育実践に関する発表, 講演等			
1) 第32回カトリック医学関連学生セミナー2016 in 札幌	2016年8月	主に学生・医療関係者の方々を対象に「子どもの笑顔を守るためにー子ども虐待の防止にむけてー」について講演を行った。深刻化する子ども虐待の実態について説明し, 地域住民の身近な問題として子ども虐待に向き合う必要性を提起した。	
2) 上富良野町子育て支援育成研修会	2018年9月	「地域における子育て支援と虐待予防」をテーマに, 保育所保育士を対象に講演を行った。児童虐待の現状を伝え, なかでも最近話題となっている「見えにくい虐待」について説明をした。	
3) 第42回札幌市私立保育園連盟保育研究大会	2018年11月	「様々な事情を抱える保護者への支援ー保護者に対する相談援助の基本」をテーマに講演を行う。また, その後のグループディスカッションでは, スーパーバイザーとして保護者対応についてアドバイスを行った。	
4) 札幌市私立保育園連盟研修会	2019年8月	「子どもと一緒にいられない親とその子への影響および保護者(親)支援について」をテーマに講演を行う。子どもと一緒にいられない, ということはネグレクトと捉える必要があることを説明し, 保護者支援の重要性を伝えた。	
5) 石狩市認定こども園保育者研修会	2019年8月	「子どもの権利条約からみる乳幼児のとらえ方ー子どもの最善の利益を考慮する保育ー」について講演を行う。特に「子どもの能動的権利の保障」に向けて乳児保育の視点より事例を挙げながら説明をする。	
6) 上富良野町子育て支援育成成人材育成事業	2019年10月	保育所保育士および子育て支援センター職員を対象に「保護者に対する相談支援ー相談支援の基本」について講演を行う。相談支援の力として, ソーシャルワークの知識・技術が必要であることを, 事例を通して説明した。	
4. その他教育活動上特記すべき事項			
1) 学科通信「散歩道」	2014年～現在	保育学科の教育内容・学生生活・ボランティア活動・就職状況などを掲載した学科通信を毎年発行している。編集および発行に関しては学科全教職員が関わっており, 保育現場およびオープンキャンパスなどの学外に向けての重要な広報となっている。	

II 研究活動				
研究分野: 社会科学分野 社会福祉学(児童福祉)		研究キーワード: 児童養護施設, ソーシャルワーク, 子ども虐待, 家族支援		
研究課題: ①児童養護施設における養護理論の構築にむけて 一児童養護施設児童への養育枠組み確立のために— ②児童養護施設における保育士の役割 一ソーシャルワーク実践を視座に—				
研究内容: ①本研究は, 児童養護施設児童への養育実践のあり方を再考し, 新たな養護理論の必要性と実践の枠組みを示すことが目的である。そのために, 本研究では児童養護施設の役割の推移に注目をしながら, これまでの養護理論についてまとめる。さらに現在の児童養護施設実践が抱える困難さの要因について言及し, そのうえで, 新しい養護理論の必要性を述べるとともに, 現在の児童養護施設に求められる養育実践の枠組みを整理することを考えている。 ②保育ソーシャルワークの重要性が叫ばれつつある中, 児童養護施設保育士に求められるソーシャルワーク実践について明らかにすることが本研究の狙いである。特に日常生活支援のあり方, 被虐待児童への対応及びその家族への支援に向けて, ソーシャルワークをキーワードに施設保育士の役割について考察を深めたい。				
科学研究費及びその他外部資金の獲得状況:				
著書・論文等の名称	著者・共著者の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	担当頁及び編者・共著者名
(著書)				
1. 藤女子大学人間生活学部公開講座シリーズ① 居場所のない子どもたちへ	共	2016年3月	藤女子大学人間生活学部	108-112頁 第四章「子どもとその保護者への支援—地域で生きる—」担当 隈本晴子編著
2. 保育・教育 実習日誌の書き方(再掲)	共	2016年9月	中央法規	106-111頁 場面⑮午後の自由遊び(福祉型障害児入所施設)担当 小泉裕子編著
3. 保育実習ガイドライン(第3版)(再掲)	共	2017年3月	全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会	松田賢一, 小川恭子, 勝井陽子
4. 実践に活かす社会的養護 I(再掲)	共	2020年1月(印刷中)	ミネルヴァ書房	小川恭子, 坂本健編 坂本健, 小川恭子, 兎澤聖, 上蘭昭二郎, 岡本眞幸, トムソン・スティーヴン, 木塚勝豊, 潮谷佳男, 高橋誠一郎, 齋藤弘美, 中垣真通, 保坂葉子, 佐久間美智雄, 齋藤信哉, 高橋美帆, 本多洋美, 高木真理, 井元真澄, 熊澤有香, 草間吉夫
5. 保育実習ガイドライン(第4版)(再掲)	共	2020年3月(印刷中)	全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会	松田賢一, 小川恭子, 保田 真希
(学術論文)				
1. 児童養護施設保育士に求められるソーシャルワーク機能—日常生活支援を通して—	単	2015年3月	藤女子大学人間生活学部紀要 第52号	91-100頁
2. 特別な支援を必要とする子どもと家族への支援—地域連携を通して考える—	共	2016年3月	藤女子大学人間生活学部紀要 第53号	65-72頁 ◎小川恭子, 吉田孝子
3. 幼小連携を視野に入れた国語教育について—絵本を題材として—	共	2017年3月	藤女子大学人間生活学部紀要 第54号	81-89頁 ◎小川恭子, 駒形武志
4. 幼小連携の視点からみた教育に関する一考察(査読付)	共	2017年3月	藤女子大学QOL研究所紀要 第12巻第1号	25-34頁 ◎高橋真由美, 駒形武志, 小川恭子
5. 自然体験学習が社会的養護を必要とする子ども達に及ぼす効果—「手稲さと川探検隊」の活動を通して—	共	2018年3月	藤女子大学人間生活学部紀要 第55号	◎小川恭子, 高橋勇造, 後藤菜摘子
6. 保育士とソーシャルワーク	単	2019年2月	保育学科研究紀要 第2号 藤女子大学保育学科	
7. 保育における造形活動の意義—「被服構成学」のTAを通して考える—	共	2019年2月	保育学科研究紀要 第2号 藤女子大学保育学科	◎小川恭子, 加藤有香
8. 母子生活支援施設における学習支援の現状と今後の課題	共	2019年3月	藤女子大学QOL研究所紀要 第14巻第1号	◎小川恭子, 福玉大輔
9. 社会的養護を必要とする子どもの学習支援に関する実践的研究(査読付)	共	2020年3月(印刷中)	北海道社会福祉研究第40号	◎高橋勇造, 石井佑可子, 隈元晴子, 小川恭子

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	担当頁及び編者・共著者名
(その他)				
1. 保育者養成の今日的意義—変わりゆくこと、変わらないこと—	単	2015年9月	全国保育士養成協議会第54回研究大会(ロイトン札幌)	公開シンポジウムのパネリスト
2. 子どもの笑顔を守るために—子ども虐待の防止にむけて—	単	2016年12月	第32回カトリック医学関連学生セミナー 2016 in 札幌(天使大学)	日本カトリック医師会会誌(37-38頁)
3. 社会的養護を必要とする子ども達の未来に向けて—手稲さと川探検隊」の活動を通して考える—	共	2017年6月	北海道社会福祉士会研究発表(北海道立道民活動センターかでの2・7)	ポスター発表 小川恭子,高橋勇造,後藤菜摘子
4. 自然体験学習が社会的養護を必要とする子ども達に及ぼす効果	単	2017年12月	きたネット北海道環境交流フォーラム2017(札幌エルプラザ)	公開シンポジウムのパネリスト
5. 造形活動が児童養護施設の被虐待児にもたらす行動変容について	共	2019年6月	北海道社会福祉士会研究発表(北海道立道民活動センターかでの2・7)	ポスター発表 小川恭子,加藤有香
III 社会連携・社会貢献				
所属学会 北海道児童青年精神保健学会, 日本子ども社会学会, 日本社会福祉学会, 日本子ども虐待防止学会, 日本発達障害学会				
(社会的機関の役員委嘱等) <全国> 2013年4月～現在 <道内> 2014年4月～現在 2015年8月～2019年10月 2016年4月～現在 2016年10月～現在 (地域的連携・貢献) 2016年8月～現在 2018年6月～現在 (国際的連携・貢献)	NPO法人日本子ども養育研究会理事 北海道幼稚園教諭養成校協会理事 札幌地方裁判所地方裁判所委員会委員 大友福祉振興財団奨学生選考委員長 カトリック聖園こどもの家第三者評価委員 様々な困難を抱える子ども達の自己肯定感や意欲の向上に野外活動(手稲さと川探検隊)が持つ意味の研究(NPO法人カコタムとの協力) 社会情緒的コンピテンスの発達過程と帰結の検討(NPO法人カコタムと連携)			
IV 学内運営活動				
学生部長, ハラスメント相談窓口責任者				
V 学生支援に関する自己研鑽				
2019年2月26日 2019年8月6日		「ハラスメント研修会」参加(藤女子大学) 「障害のある学生の修学支援に関する研修会」参加(北海道大学)		